

令和7年度 枚方支援学校 学校教育自己診断 分析結果

(実施期間：令和7年11月15日～令和7年12月12日)

1. アンケートの回収率

	令和6年度	令和7年度
児童生徒数 (回収率)	140/388 (36%)	166/404 (41%)
保護者数 (回収率)	283/373 (76%)	326/391 (83%)
教職員数 (回収率)	164/164 (100%)	166/166 (100%)

《考察》

今年度の自己診断はフォーム作成ツールで実施し、保護者は行事日に設置した回答ブースの効果により効率的に回収が進み、情報埋没の懸念も減ったことで回答数が増加した。

一方、児童生徒はイラスト付き質問の導入で理解が促され回答は増加したものの、依然として低水準であり、ペーパーレス化前の水準に戻すには新たな工夫が必要である。取り組みやすさが向上した現状を踏まえ、別の視点から改善策を検討することが求められる。

2. 昨年度の重点課題

【高い人権意識の維持及び人権感覚の見つめ直し】

※カッコ内の数値は、肯定的な評価の割合

保⑩教職員は、子どもの人権に配慮した言葉遣いや態度で指導を行っている。(全体：97%)

保⑪学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば、真剣に対応している。(全体：95%)

児④先生は、自分や友だちを大事にすることを、教えてくださいか。(全体：95%)

児⑤先生は、ていねいな言葉遣いで話してくれますか。(全体：94%)

児⑧先生は、友だち関係で困っていることがあれば、真剣に対応してくれますか。(全体：90%)

児⑭じぶんとはちがう かんがえやおもいをたいせつにすることができる。(全体：80%)

教⑨わたしは、教育活動全般において、児童生徒の人権に配慮した言葉遣いや態度で指導を行っている。(全体：99%)

教⑩本校は、いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。(全体：84%)

《考察》

「児生⑭」の項目は全体として改善が見られたものの、小学部では肯定的な評価がやや低下した。「児生④・⑤・⑧」の項目との関連が確認されており、今後は言葉遣いへの配慮や、困り感への支援等について、より適切に取り組んでいく必要がある。

いじめ対応については、体制そのものは概ね整っていると認識されているが、教職員の認知や、いじめ事案の経験の差による共有・浸透の不十分さが課題として残っている。事案の複雑化も念頭に置きつつ、対応の質を高めていく。

全体として肯定的評価は高いものの、否定的評価の改善には継続的な取り組みが必要であり、「こころポスト」など今年度導入した取り組みは長期的な効果検証が求められる。

3. 今年度の結果

【①進路関係について】

※カッコ内の数値は、肯定的な評価の割合

児⑦将来(進路のことなど)について、先生は教えてくださいか。(全体：81%)

児⑫しょうらいのゆめや もくひょうをもっている。(全体：53%)

保⑬学校は子どもの将来の進路について、必要な情報や見学の機会を適切に提供している。(全体：99%)

《考察》

「保⑬」の項目の高評価から、進路情報提供体制は整いつつあり、説明会や見学会の充実が保護者の安心につながっていると考えられる。

一方で、児童生徒の理解や実感は十分でなく、情報が本人の意欲に結び付いていない点が課題である。「児生⑫」の項目では、学年進行に伴う改善から、段階的な学習の効果が見られ、高等部における卒業生の学習会は理解の深化に寄与している。

今後は、他学部にも同様の機会を広げ、クリンタイム等の異年齢交流の目的共有を明確にし、将来像が実感できる学習へと改善する必要がある。

【②防災について】

※カッコ内の数値は、肯定的な評価の割合

保16 学校は、地震や台風等の災害に対し、普段から訓練や備蓄等で備えを行っている。
(全体：100%)

教16 本校は、事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。(全体：80%)

教17 本校は、地震や台風等の災害に対し、普段から訓練や備蓄等で十分な備えを行っている。
(全体：80%)

《考察》

本結果から、防災体制は訓練や備蓄の充実により着実に進んでいるものの、教職員の「十分な備え」への実感は不十分であり、保護者との認識差が課題といえる。

保護者は備えの見える化により安心感が高まっている一方、教職員は備蓄確認の機会の少なさや、災害時に体制が機能するかという不安を抱えている。また、役割分担の整理は進んでいるものの、マニュアル改定中で行動の共有に差が生じており、特に小学部では防災への意識の高さが厳しい評価につながったと考えられる。

4. 今年度の結果から読み取れる重点課題

【人権意識の維持向上及びアップデート】

《課題》

- 高い人権意識の維持向上を図り、教職員の否定的な評価を0%にする。
- 教職員のいじめ対応の理解と定着。
- 事案の複雑化により、教員が十分に把握・対応しきれていない状況への対応。

《対策》

- 既存の学校いじめ防止基本方針を改善し、いじめ対応の実効性を高める（体制・周知・訓練の一体化）。
- 人権委員会で共有されている事例を主任会等で紹介し、認識の共有を図る。
- 「こころポスト」の定着を図り、児童生徒が安心して悩みや不安を伝えられる体制を整備する。